

学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた

授業のデザイン

新学習指導要領では、生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが示されています。本紙は、改訂の趣旨を踏まえた授業の例などを示しています。各学校において、自校の年間指導計画や児童の実態等を踏まえ、確かな学力を身に付けさせる授業をデザイン（構想）するための参考資料として御活用ください。



小学校・生活



生活科の目標及び学習指導要領改訂のポイント

1 生活科の目標

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

2 学習指導要領改訂のポイント

- ◇気付きの明確化と気付きの質を高める学習活動の充実
- ◇伝え合い交流する活動の充実
- ◇自然の不思議さや面白さを実感する指導の充実
- ◇安全教育や生命に関する教育の充実
- ◇幼児教育及び他教科との接続

事例と関連のある本県の重点とする目標

－「指導の指針」より 栃木県教育委員会－

- 指導計画の工夫改善
 - ・幼児教育との円滑な接続を図る指導計画
 - ・スタートカリキュラムの充実
 - ・安全教育、動植物の飼育、栽培の位置付け
- 学習指導方法の工夫改善
 - ・他と関わる活動の充実と気付きの質を高める学習活動の充実
 - ・伝え合い交流する活動の充実
- 評価の工夫改善
 - ・指導と評価の一体化
- 学習環境の整備と安全指導
 - ・学校環境・指導体制

【参考文献】

- ・「小学校学習指導要領解説 生活編」 文部科学省 平成20年8月
- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 生活】」 国立教育政策研究所 平成23年11月
- ・「指導の指針」 栃木県教育委員会 平成25年3月

◇本リーフレットは栃木県総合教育センターホームページ(<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>)から、ダウンロードできます。
 ◇問い合わせ先 栃木県総合教育センター研究調査部 Tel.028-665-7204

幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続を図るために、第1学年入学当初、生活科を中核とした大単元を構成するなどの指導計画の工夫が必要です。4月から4か月間の「スタートカリキュラム」の事例です。

指導のねらい

児童が入学前の経験や自分のよさを生かしながら新しい環境に慣れたり、きまりを作り上げたりすることを通し、安心して学校生活を楽しむことができるようにする。

＜学習指導要領との関連＞

生活科の内容（1）学校と生活

指導計画作成上の配慮事項（3）

単元の例

大単元名 「だいすき！わたしのしょうがっこう！」（第1学年入学当初）

ねらい	○幼稚園や保育所での学びや自分の得意なことを生かしながら、新しい環境やきまりに適應し、学校生活を楽しめるようにする。					
入学前	4月	5月	6月	7月	夏季休業	
○二年生との交流活動（十一月・秋祭りへ招待） ○幼稚園・保育所との情報交換（二月） ○保育要録・指導要録の受け取り及び活用（三月）	生活科を中心とした学習活動	楽しいこといっぱい！ 39時間（生23・国6・算1・音2・図2・体1・道2・学2） ★ともだちになろう 7時間（生2・国2・音1・図1・体1） ★がっこうをたんけんしよう 25時間（生16・国4・算1・音1・図1・道1・学1） ★いきものとなかよし 2時間（生2） ★ちかくのこうえんにいこう 5時間（生3・道1・学1）				
		おおきなあれ！わたしのおはな 19時間（生11・国3・算2・図1・道1・学1） ★なんのおはなにしようかな？ 2時間（生1・国1） ★たねをまこう 2時間（生1・国1） ★おおきくなってね 10時間（生6・国1・算1・図1・道1） ★たねができたよ 2時間（生1・算1） ★サツマイモのなえをうえよう 3時間（生2・学1）				
学校生活の留意点	【入学前】 スタートカリキュラムについて、全職員で共通理解する。	【入学式】 スタートカリキュラムの趣旨を保護者に説明する。	【朝の会】 幼稚園や保育所の雰囲気ですスタートできるよう手遊びや歌などを取り入れる。	【授業】 入学当初は45分こたわらず、モジュールで行う。身体表現やゲーム的な要素を含める等、学習形態を工夫する。	【給食当番】 幼稚園や保育所での経験や児童の意欲を生かして、できることは任せるようにする。	【係活動】 係の種類や内容人数については、生活の中で必要なことを児童たちと話し合って決めるようにする。
	【家庭との連携】 毎日のお便りで、翌日の連絡を知らせるとともに、児童の様子を伝えるようにする。			【幼・保との連携】 授業参観の案内を送り、入学後の児童の様子を直接参観してもらう。学年や学校の便りを定期的に送り、入学後の様子を伝える。		

評価に当たって

○入学当初の児童は、学校生活全てが学びの場です。生活科の時間を中心に、他教科、休み時間、給食等も含め、児童の姿を多面的に評価することが大切です。下校後の出来事や家庭での様子も学校生活と深く関連するので、地域や家庭との連携も重要です。

留意点及び工夫点

- 幼稚園や保育所から入学してきた児童の学びや発達は連続しています。特に入学当初は、これまでの生活経験や幼稚園・保育所で培った学びの芽を発揮しながら学校生活に徐々に適應していきます。教師は、一人一人の意欲や思考に寄り添い、児童が、学校にいる人々や興味のあるものとじっくりと関わることで、できる時間や空間を確保することが大切です。
- 生活科を中核とした大単元の実施に当たっては、第1学年の教師だけでなく、全職員への周知と理解が必要です。また、入学式等の機会に保護者に周知したり、近隣の幼稚園・保育所等と共通理解したりするなどして、幼児期の教育の成果が小学校教育に生かされるよう工夫しましょう。

生活科における栽培活動は、児童にとって学校生活を支える楽しみの一つです。栽培活動に、様々な教科等の要素を含んだ合科的な指導の事例です。

指導のねらい

継続的な栽培活動を通して、他教科や道徳等で身に付けた技能や知識を生かしながら、生命の尊さや自然の不思議さに気付くなど科学的な見方・考え方の基礎を養うことができるようにする。

<学習指導要領との関連>

生活科の内容（7）動植物の飼育・栽培 指導計画作成上の配慮事項（2）（3）

単元の例

単元名「おおきくなあれ！わたしのおはな」19時間（第1学年）

【国語と関連させて】



【算数と関連させて】



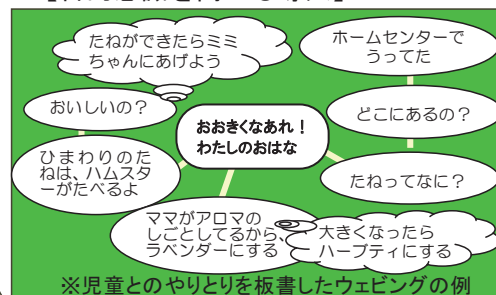
【音楽と関連させて】

・ひらいたひらいた
・かたつむり 等

小単元ごとの主な学習活動

- (1) なんのおはなにしようかな？ 2時間
○花を育てた経験や知っていることを学級全体で話し合うことで、栽培に対する個々の思いをふくらませる。
- (2) たねをまこう 2時間
○植木鉢に花の名前や栽培への思いを含めたプレートを立てることで、自分の育てる花の名前の文字に対する興味をもつ。
- (3) おおきくなってね 10時間
○葉やつばみの形状や数などの視点を明確にし、他の花との共通点や相違点に気付く中で、自然の不思議や生命の尊さに気付く。
○つばみや花の数を数える児童のつぶやきなどから、算数の問題作りに挑戦する。
- (4) たねができたよ 2時間
○算数で学んだことを生かし、10 のまとまりを作りながら種の数を数える。
- (5) サツマイモのなえをうえよう 3時間

【目的意識を高める導入】



【気付きの自覚や高まり】

「朝顔のつぼみてロケットみたい」

教師：友達のお花は、どうかな？

・比べる ・たとえる ・見つける 等
多様な学習活動

「ひまわりのつぼみはイソギンチャクに似てる」
「ロケットみたいなのは朝顔だけだ」
「お花によってつぼみの形が違うんだね」

【道徳の時間と関連させて】

生命尊重 「こうすけのあさがお」等

児童の思考は、「国語」「算数」と明確にわかれていません。栽培活動を通して、様々な教科の力が相乗的に助長されるのです。



評価に当たって

○生活科では、この時期の児童の発達に合わせた合科的な指導が重要であり、事例のように他教科や道徳等の学習の要素を含んでいる学習活動がたくさんあります。教師は生活科としてのねらいを明確にもち、関連する教科等の特性や要素を生かしながら、出来映えや結果のみの評価ではなく、児童の思いや表現の過程を評価することが大切です。

留意点及び工夫点

- 児童のつぶやきや児童同士の会話の中に、各教科や道徳等に結び付くヒントがたくさんあります。単元構成をする際、どの教科のどの要素に関連した学習となるか指導計画に明記しておきましょう。そのためには、学校生活全般で、児童の声に耳を傾け、一人一人に寄り添う教師の姿勢が大切です。
- 栽培活動は、第3学年以降の理科の学習によく似ていますが、生活科では、児童の思いやその子なりの思考の過程、表現方法を大切にします。この事例のように、児童が繰り返し自分の育てる植物に関わったり、教師の適切な支援により気付きの質を高めたりすることを通し、科学的な見方・考え方の基礎を養うことは、理科の学習における「実感を伴った理解」の土台となります。

生活科における言語活動では、言葉の交流と感情の交流を大切にしています。町探検の視点を明確にしたり、多様な表現方法を取り入れたりするなどの工夫をした、双方向性のある伝え合いの事例です。

指導のねらい

町探検で見つけたことを多様な表現方法で友達に伝え合うことを通して、2回目の探検への課題を見いだすことができるようにする。

<学習指導要領との関連>

生活科の内容（３）地域と生活（８）生活や出来事の交流 指導計画作成上の配慮事項（１）

授業の例

題材名「教えてあげる！わたしの町の大はっけんパートⅠ」2時間（第2学年）

学習活動	教師の支援・配慮点
1 活動のめあてを確認する。 町たんけんで見つけたことをいろいろなほうほうでおしえあおう！	○児童は、前時の学習からの見通しをもっているため、めあての確認に時間をかけないようにする。
2 探検の視点を確認する。 ・おすすめスポット ・しょうかいしたい人 ・いろいろなお店 ・あぶない場所 等	○視点を繰り返し押さえ、2回目の探検への意欲が高まるようにする。
3 グループごとに、探検で見つけたことを発表する。	○一方的な発表にならないよう児童の表情やつぶやきを見逃さずにつないでいく。
 わたしたちは、交番のおまわりさんにインタビューしたことを紙芝居にしました。題は「おまわりさんの一日」です。 「悪い人をつかまえるの、こわくないのかな？」「落とし物もさがしてくれる。」「事件がないときは、何をしているんだろう？」「もっと聞いてみたいな。」	児童は、やりたくてわくわくしています。児童の力を信じて授業のスタートから任せてしまってもできます。
 ぼくたちは、おすすめスポットの「ひこうき公園」について、かえ歌を作りました。聞いてください。♪♪ 「どうして、ひこうき公園っていう名前なんですか？」「真ん中にある大きな木が飛行機に似ているからです。」「歌を聞いたら、公園に行きたくなっちゃいました。」	探検の視点に基づいて、子どもらしい発見を認めることで、自分たちの住む町への愛着をもちます。この経験が3年生以降の社会科の学習につながります。
 ぼくたちは、クイズにしました。「けんたくんの家の近くには、ある生き物がたくさんいます。それは何でしょう？」 「ダンゴ虫？」「ヒントは、けんたくんの家は、学校の門を右に曲がってずっと行ったところですよ。」「田んぼの方だぞ。」「わかった！カエルだ！」	
4 友達の発表を聞いて、行きたくなった場所やもっと調べたくなったことなどを発表する。	○誰の発表からそう思ったのかを明確にしながら、話し手と聞き手の双方を称賛し、2回目の探検への意欲を高める。

このほかに、
・聞こえた音
・いいにおい等
五感を使った視点等も児童の思考に合っています。

気付きが次の活動を生み出します。

評価に当たって

○児童は、自分の発見したことを伝えるために、効果的な表現方法を考え工夫します。多様な表現を認めたり称賛したりして、一人一人の自己実現の過程を大切にしましょう。また、児童同士のやり取りの中で気付きの質が高まる場面を的確に捉えることが重要です。その際、発言だけでなく表情やしぐさ、態度等の言葉によらない部分も見取りましょう。

留意点及び工夫点

- 町探検の1回目と2回目の間に友達との情報共有の場を設定することで、個々の児童の気付きが高まったり、新たな疑問をもったりします。国語科の学習を生かしながら、声の大きさ等のスキルのみの指導にならないように、教師が、生活科における言語活動のねらいをしっかりと持っていることが大切です。
- 生活科の言語活動には、「伝えたくなる体験」と「伝えたい相手」が必要です。その中で、「言葉の交流」と、真剣に聞いてくれる友達のためにしっかり話すことや、大好きな友達が話すから真剣に聞く、という「感情の交流」が大切です。日頃の学びに向かう集団づくりや学級経営が双方向性のある言語活動を支えます。